

就職支援活動

—この一年の成果と課題—

酒光 伸嘉

学務部学生支援課課長補佐
(就職支援室長)

平成23年春のキャリアセンターの設置に伴い就職支援室がその一部となってから、間もなく2年が過ぎようとしています。この間、学生の就職活動を取り巻く環境の一番大きな変化は、昨年度の採用に関する企業団体の倫理憲章の見直しによる開始時期の10月1日から12月1日への変更でした。さいわい本学の学生には大きな混乱はありませんでしたが、企業訪問が本格化した年明けからの1か月は、思いもよらず短期間にエントリーシートの添削が殺到したため、今年から年度末の3か月、相談員1名を増強しております。

さて、私たちの業務の1つに学部を横断しての就職活動支援ガイダンスがあります。ガイダンスは6月頃から12月までの間に就活の心がまえから面接の受け方まで系統的に実施しています。しかし、昨年度の3年生の中には就職活動のスタート時期になってもこの部分が理解できていない学生が見受けられました。そこでガイダンスの構成の見直しとともに、多くの学生の間にも広く周知されている学生企業展のスタートアップセミナーを初期に挟み込むことによって、以後連続するガイダンスへの出席へと繋げました。また、アンケートで多く聞かれた「初めて就職支援室へ来ることの抵抗感」についても、ガイダンスとの相乗効果でほぼ解消し、早期から多くの学生が来室するようになりました。

他大学では例をみない学生企業展は、学生の自主的活動であり、キャリア形成支援という位置づけでできる限り協力を努めました。その結果、参加企業からは以前にも増して高い評価をいただき、また、多くの企業に門戸を開くべく、土曜日だけでなく日曜日も含め2日間開催となっています。

本学では以前から各学部で文系・理系それぞれの事情に基づいた独自の就職支援を行ってまいりました。私たち就職支援室では、それらの取組みと協力連携しつつ、一人ひとりの学生の将来の発展のために全学が一体となって就活支援を行うことが大事だと考えます。そして、県内唯一の国立大学として、優秀な人材を求める地元からの声に応えるべく努めます。



就職活動支援ガイダンス



学生企業展のブース



ある日の就職支援室風景

● 学生インターンシップの成果と課題 ●

報告 | 平成24年度第2回キャリアセンターFD

2月27日に平成24年度キャリアセンター第2回FD「学生インターンシップの成果と課題」が開催され、30余名の参加のもとで活発な討議がなされました。

報告では、まず資料「岐阜大学インターンシップの取り組み状況」をもとに佐々木キャリアセンター長より報告があり、インターンシップ参加学生数が平成24年度は267名にもほり全学部などでそれぞれの目的を持って活発に実施されていると報告されました。

つづいて「学生インターンシップの実際と課題」と題して、立命館大学キャリア教育センター副センター長の廣瀬幸弘先生の特別講演があり、立命館大学での先進的なインターンシップの取り組み経験にもとづき、1年間にわたるグループ方式での課題を明確にしたインターンシップの実施が優れた効果を上げていることなどが報告されました。つづいて岐阜大学でのインターンシップの実際と課題について、仲澤和馬先生(教育学部)、南出吉祥先生(地域科学部)、鈴木康之先生(医学部)、山下実先生(工学部)、千家正照先生(応用生物科学部)と、さらに荒賀年美先生(イノベーション創出若手人材養成センター)、高木朗義先生・岩瀬彰子氏(地域協働型インターンシップ)からあり、学生インターンシップといっても各学部・学科によってまた学部1年などの低学年、専門研究に入りまた就職活動を開始した3,4年生、専門性を高めている修士課程の院生、研究者を目指す博士課程院生まで、学年によって目的や実施形態が異なるがそれぞれ座学だけでは達成できない教育効果を上げていることが確認されました。

今後の課題としてはインターンシップに対する教員の指導方法や評価方法の一層の検討が必要とされるとする意見も出されました。そして最後に「岐阜大学長期インターンシッププログラム(GULIP)」について佐々木センター長から説明がありました。



FD研究会の様子

報告 | 学生の自主的活動の成果報告と交流会

2013年3月7日、大学会館第6集会室にて「学生の自主的活動の成果報告と交流会」が開催されました。春休み期間中ではありましたが、自主的活動に参加している学生はもちろんのこと、教職員、一般参加あわせて35名ほどの参加となりました。

参加したのは、「岐阜大学イルミネーション実行委員会」「学生が集えるカフェ作り」「やな学プロジェクト(やながせ×学生)」「岐大発!熟議推進委員会」「岐阜大学学生企業展実行委員会」「学生ボラネット」「SEELE(学生シラバス)」「ESDクオリア」「緑化サークルthree trees」「地域協働型インターンシップ」の10団体です。

佐々木実キャリアセンター長による開会の挨拶のあと、各団体が以下のような報告を行ないました。「本学構成員全員が楽しめるイルミネーションづくり(岐阜大学イルミネーション実行委員会)」「学生がざっくばらんに様々なことを話すことのできる場づくり(学生が集えるカフェ作り)」「地域と学生の交流、学生の成長、地域再生(やな学プロジェクト)」「熟議を通してキャリア形成に関する話題について話し合う場を提供する(岐大発!熟議推進委員会)」「学生が主体となっていく学生と企業の出会いの場づくり(岐阜大学学生企業展実行委員会)」「ボランティアを広げるボランティア(学生ボラネット)」「学生によるシラバス作成とそれによる大学教育でのミスマッチ解消(SEELE)」「環境教育や環境保全(ESDクオリア)」「岐阜大学内や周辺地域の緑化等(緑化サークルthree trees)」「長期休暇を利用した地域に根差したインターンシップ(地域協働型インターンシップ)」。

報告では、自主的活動に伴う困難に触れながらも、それぞれの意義や自身の成長についても語られてました。報告後にはキャリアセンター運営委員による講評や優秀な活動の表彰が行われ、さらに、参加者同士がそれぞれの活動や支援者としての大学の課題についても意見交換する場が設けられ、有意義な会となりました。



交流会の様子

就職相談 —この1年を振り返って—

服部 三和子

就職活動支援アドバイザー

岐阜大学の就職支援室に就職相談室が常設されて4年が経ちました。就職支援室がキャリアセンターの一部となり、大学会館1階で就職相談を行うようになってから2年になるところです。就職相談件数は年々増加の傾向があり、今年度はピーク時期の相談員を増員したこともあって個別相談件数は約1200件で、4年間で倍増しました。これは就職支援室の存在が学生に認知されてきたことを感じますと同時に、最近の就職を取り巻く環境の一層の厳しさの中、何とか就職を勝ち取りたいという学生の意識の高さの現われだと感じています。相談員として、利用される学生一人一人に即した就職上の疑問や不安に対して、適切なサポートに努めたいと考えております。

さて、年間を通して相談件数が多いのは何と言っても1月から3月の時期です。企業から履歴書やエントリーシートの提出が求められ、何をどう書いていったらいいのかに学生は悩みます。自己PRする題材を見つけること、それを文章に書く作業です。今まで自分と向き合うということをしてこなかったとか、自分をPRするという経験がないことから短所は見つかるけれども長所が見つからないとか、これといって何も自慢できる経験がないと嘆く人がいます。就職活動の時期になって、何も考えてこなかった事に初めて気づくことになります。しかし、じっくり話を聞いていくと題材は見つかってきます。それを引き出し、意識付けていくことが相談員の役割でもあると思っています。一方で、大学に入ってから目的意識がはっきりしていて、充実した学生生活を送った学生は、履歴書やエントリーシートが完成すると目が輝き、どんどん前へ歩み始め頼もしく感じます。

就職活動中だけではなく、普段の大学生活における取り組みの充実が自己評価に繋がっていると思われる。これを高めるためのキャリア教育の取り組みが充実されていくことは、学生の希望の就職、幸せな人生を送るためにも重要なことだと感じています。

● キャリア形成の自主的活動 ●

学生ボラネット この1年の活動成果

益川 浩一

キャリアセンター副センター長

キャリアセンターでは、学生のみなさんが「学外の様々なボランティア活動や地域活動に参加し、地域の人びとと共に活動することを通して、実践的な生きた知識や技能を学ぶとともに、その過程において豊かな人間性や社会性、課題解決能力を身に付け、自らのキャリア形成を積極的に進めることを支援する」ことを目的として、特定非営利活動法人ぎふNPOセンター及び岐阜県環境生活部人づくり文化課と連携して、「ぎふ学生ボランティア・地域活動ネットワーク」構築事業（通称：「ぎふ学生ボラネット」）を進めてきました。昨年3月から今年の2月までに、のべ112名の学生のみなさんが、福祉、医療、保健、まちづくり、文化、情報、子育て、教育、防犯、災害・防災、国際交流、イベント企画等、幅広い分野のボランティア活動・地域活動等に参加してくれました。ボランティア活動等に参加した学生のみなさんから寄せられた声から、次のような本事業の成果が得られたと考えています。

第一に、学生のみなさんが、ボランティア活動等に参加することを通して、多様な大人や地域の人びとと新たな人間関係を形成することで、自らの視野と世界を広げ、新たに知的に拓かれていく自分を感じ取って、「わくわく」しているということです。

第二に、ボランティア活動等の中に、学生のみなさんが、大学とはまた一味違った「出会い」・「気づき」、そして「学び」を見出しているということです。そうした活動を通して、自分の地域で、そして社会や世界で起きていることに気づき、出会った人びとから色々なことを学び、考えさせられ、自らを改めて見直して社会参加を進め、社会の主体的・能動的な参画者としての自己を定立していくきっかけとなっているのです。

第三に、ボランティア活動等に参加し、活動を行うことが、学生のみなさんの大学における学習活動や大学での学習への取組方にも影響を与えているということです。大学の授業において教員から示される理論的な内容が、ボランティア活動等の場における実践によって裏付けられるという良好な関係が生み出され、大学での授業内容が自身の実感・体験に即して解釈され直すことで、大学の授業の社会的な意味を学生のみなさんが改めて感じているという点です。

まだ、活動に参加されていない学生のみなさん。ぜひとも気軽に、そして積極的に活動にチャレンジしてみてください。



ボランティア・地域活動に参加する学生

医学部医学科のキャリア形成と就職状況

村上 啓雄

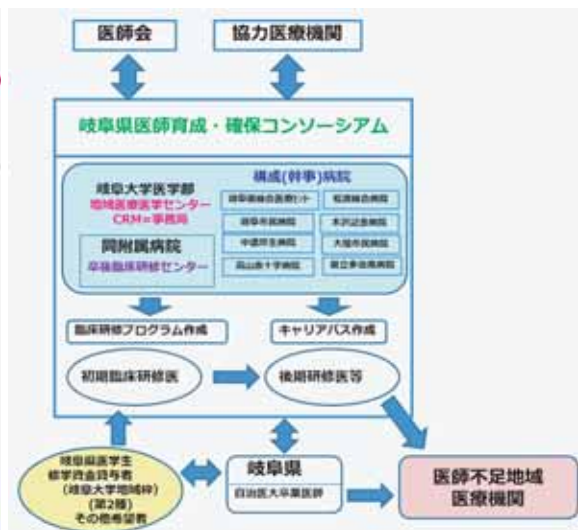
医学部附属地域医療医学センター

岐阜県の医師数は全国平均に比べかなり少なく、平成19年の時点でワースト5位でした。その対策として平成20年度から医学部医学科では「地域枠推薦入試」を開始し、平成20年度10名、21年度15名、以後毎年25名を選抜し、結果的に医学部医学科全体の入学定員は80名から107名に増加しました。地域枠は入学要件に「岐阜県医学生第1種修学資金」の受給が必須となっており、その返還免除条件として、卒業後県内臨床研修病院（22病院）での初期臨床研修2年＋9年間県内医療機関での指定勤務が課せられています。また地域枠以外の入学者および他県の大学医学部在学中の学生が任意に受給できる第2種修学資金と合わせ、平成25年度までに244名（第1種125名、第2種119名；予定も含む）の岐阜県医学生修学資金受給者を数えることになります。

これら多数の医師が2年間の初期臨床研修およびその9年間の県内での指定勤務を行う上で十分な指導体制を確保し、医師が安心して円滑かつ効果的にキャリアアップが図れるようサポートするため、平成22年9月に結成されたのが「岐阜県医師育成・確保コンソーシアム」です（HP：http://www1.gifu-u.ac.jp/dr_conso/index.html）。本コンソーシアムは、岐阜大学医学部および県内で研修医が多く集まる9病院（岐阜大学医学部附属病院を含む；付図参照）を幹事（＝構成病院）として、県内の各病院、医師会、病院協会、協力医療機関等との連携体制で構成されています。

初期臨床研修医には魅力的な研修プログラム提供、後期研修医等には自身の将来の希望に応じたキャリアパスの提供・支援を行い、若手医師の育成と県内定着を図るとともに、後期研修～指定勤務プログラムの中に一定期間の医師不足地域・病院での勤務を含めることによる効果的な地域医療確保・医師確保の役割を担っています。詳しいことは事務局（医学部附属地域医療医学センター：CRM内）まで、お気軽にお問い合わせください。

岐阜県医師育成・確保コンソーシアム



新任のご挨拶

岐阜大学キャリアセンターに着任して



児島功和

今年の1月にキャリアセンター特任教員として赴任しました児島功和です。私の専門は教育学で、特に若者が学校で学びその後社会をどのようにわたっているのかを主に調査に基づいて研究してきました。非正規雇用や無業の広がりや象徴されるように「仕事の世界」の厳しさは増えています。しかしながら、調査で出会った若者は時に学校時代や職場の仲間・コミュニティに支えられながら、危機を乗り切っていました。不安定化する社会をしたたかに、そしてしなやかにわたっていくために必要な知識・知恵と、互いに支えあえるような関係形成がキャリアを考えるうえで重要と考えています。キャリア形成関連の授業やキャリアセンターの活動の場において、学生の皆さんがこうした課題に向き合えるよう支援していきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

自己紹介

専門分野・動物行動学、応用経済学（行動経済学、環境経済学）

私は子供の時から動物が大好きで、獣医学部に入学し大学院では鳥類の繁殖生理と繁殖行動を研究しました。その後、大学院・経済学研究科に再入学し行動経済学と環境経済学を学びました。

現在、産学連携による長期インターシップに対する新しい評価手法の開発について研究しています。社会における就業体験を通じて、大学の専門学問に対する社会の需要とその社会的価値について気づき学びを深化させるプロセスを検証したいと考えています。

また、グローバル社会において、多様な価値観と国際的視野を持って行動できる人材の養成にも興味がある。国内企業はもちろんのこと海外企業や海外の大学との有機的な産学連携教育の構築に向け、積極的かつパワフルに行動してまいります。



廣瀬幸弘

キャリアセンターニュース編集委員

委員長 佐々木実（キャリアセンター長） 委員 今井 健（キャリアセンター副センター長）
委員 酒光伸嘉（課長補佐・就職支援室長） 委員 藪田 薫（キャリアセンター参事補）

● 岐阜大学キャリアセンター ●

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

キャリアセンター

TEL 058-293-3393

career@gifu-u.ac.jp

就職支援室

TEL 058-293-2147・3362

job@gifu-u.ac.jp